

波切不動



<http://digitalarchiveproject.jp/information/波切不動>



白山市鶴来今町に南、手取川七ヶ用水給水口に西接し舟岡山の山裾に磨崖仏が小堂に安置されている。高さ約 2.6m、幅 2.1m、厚さ 0.7mを測る。舟形に切り取られた巨石に、不動明王坐像が線彫りされている。彫面は平坦になっている。上部不動明王の背面は火炎が線彫りされている。その中央に螺髪の不動明王の顔が見え、向かって左側に刀剣が見える。摩耗が激しく他の図がらは不詳。13 世紀頃の作品と推測されている。本像の向かって右側には3体の仏像が安置されている。前列のものは地藏菩薩半跏像で、面相は表現されていない。石高は 90 cmである。前列のもう1体は如来刑坐像、石高は 68cmを測る。後列の1体は、阿弥陀如来坐像である。石高は 92 cmを測る。もともと、凝灰岩からなる舟岡山の磨崖仏であったが明治 32 年から始まった手取川七ヶ用水の掘削事業により、岩塊から切取られ、現在の姿になる。「波切」は手取川の河畔波切部にあったことによる。その他に、このあたりに江戸時代まで九重の石塔があったらしく、御堂向かって左側には、石塔の円形状の屋根部、向かって右には塔輪の残骸が残っている。



003_波切不動000



004_波切不動001



005_波切不動002



006_波切不動003



007_波切不動004



008_波切不動005



009_波切不動006



010_波切不動007



011_波切不動008



012_波切不動009



013_波切不動010



014_波切不動011



015_波切不動012



016_波切不動013



017_波切不動014



018_波切不動015



019_波切不動016



020_波切不動017



021_波切不動018



022_波切不動019



023_波切不動020



024_波切不動021



025_波切不動022